

あなたの一票大切に

黒埼町議会議員一般選挙

投票日は4月21日

午前7時～午後6時

任期満了に伴う黒埼町議会議員一般選挙が、統一地方選挙の一環として、4月16日告示、4月21日投票で行われます。

この先4年間をになう議員を選ぶもっとも身近な選挙です。自由な立場で、明るく、住みよい町づくりのため、正しい一票を投じましょう。

■新たに選挙人名簿に登録される人
 ▼満20歳到達者：昭和46年4月21日以前に生まれた人
 ▼転入者：平成3年1月15日以前に黒埼町に転入届出をし住民基本台帳に登録され、引き続き住んでいる人

■不在者投票の手続き
 本人自らが、選挙管理委員会（役場本館1階 階段わき）で「請求書兼宣誓書」を提出して不在者

■黒埼町議会議員一般選挙日程
 名簿登録基準日（登録日） 4月15日
 名簿縦覧期間 4月16日～17日（2日間）
 告示日 立候補届出日 4月16日（立候補届出締切りは同日午後5時）
 不在者投票期間 4月16日～20日（5日間）
 投票日 4月21日
 （投票時間は午前7時～午後6時）

■選挙人名簿から抹消される人
 ▼死亡者
 ▼転出者：平成2年12月20日以前に転出届出をされた人
 ※ただし、平成2年12月21日から投票日（4月21日）までに転出届出をされた人は投票できません。

■郵便による不在者投票
 身体障害者手帳または戦傷病者手帳を受けており、身体に重度の障害のある人で、「郵便投票証明書」の交付を受けていれば、郵便による不在者投票ができます。

■不在者投票
 投票日にどうしても投票所へ行けない人は、不在者投票期間内に選挙管理委員会で投票することができます。その他、病気などで入

■不在者投票の手続き
 本人自らが、選挙管理委員会（役場本館1階 階段わき）で「請求書兼宣誓書」を提出して不在者

不明な点は、選挙管理委員会にお問い合わせください。（☎377-3101内線155）

■投票所は次のとおり

投票区名	投票所
第一投票区	環境改善センター
第二投票区	興野保育所
第三投票区	大野小学校
第四投票区	善久保育所
第五投票区	立仏保育所
第六投票区	山田小学校
第七投票区	寺地保育所
第八投票区	板井保育所
第九投票区	木場小学校
第十投票区	黒鳥公民館

投票をすることになります。その用紙は選挙管理委員会に用意してありますが、その際は印鑑を忘れずに持参ください。

明くきれいな地方選挙を
 民主主義の原点といわれる地方自治の健全な発展のためには、地方選挙が明くきれいに行われなければなりません。

そのためには、政党、候補者、選挙運動に携わる人の良識ある行動とともに、有権者一人一人が主権者としての自覚をもって行動す

ることが必要です。
 あなたの正しい判断で
 候補者の人がらや政見をよく見きわめ、買収や供応などの不正に惑わされることなく、私たちの代表としてふさわしい人を選びましょう。誰かに頼まれたからではなく、あなたの正しい判断が、いま求められています。



黒埼町の今昔

町史編さん班

金巻の演芸部 (三)

金巻青年会の楽団「花若」は「そよ風」と改名し、昭和二十六年まで活動する。

昭和二十一年正月、金巻で結成された楽団「花若」のメンバーは、聞念寺の本堂で練習を重ね、二十一年の暮れころにはかなり自信をもって舞台にあがれるようになった。

各部落から、ポータブル蓄音機にレコードをかけて踊るマドロスものや民謡、小芝居などが演じられた。娯楽のない時代だったからどんな演し物でも拍手かっさいを受けた。

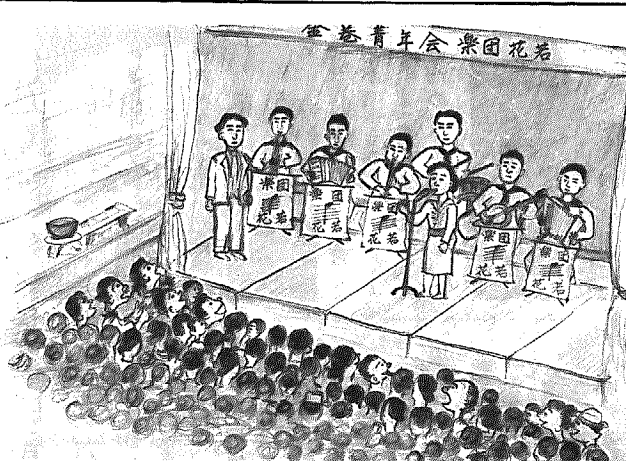
背広に身を包み、女性歌手は当時珍しいレースのついた純白のワンピースに、腰にピンクの布を巻き、髪には大きなリボンをつけていた。楽員もみな白ワイシャツにピンクの布をネクタイのように首に巻いていた。そしてこの大会では、「花若」が優勝した。

「花若」から「そよ風」へ一年くらいで「花若」は「ハッピーライフ」と名前を変えた。その名も一年ほどで「そよ風」に変わった。この「そよ風」の名が一番長く、そして最後まで使われた。

金巻青年会の楽団が本格的に活躍したのは二十二年から二十五年までの四年間で、金巻の慰安会はもちろん、新潟刑務所や国立新発田病院の慰問、大野町商工会の山車の出演など、幅広く活動した。二十六年、楽団「そよ風」は解散したが、小川、田辺、今井の三人はその後も木場や大野などの音楽愛好者たちと組んで二十八年の暮れごろまで音楽活動を続けていた。

入場はもちろん無料だったが、昔からこういう催しには観客から祝儀があがったもので、それを司会の高橋芳衛が万歳で才蔵が口上を述べる調子で「エートサイ東西ー唯今〇様より御祝儀金〇〇円下さー」と大きな声で、もらった金額の十倍くらいで読みあげた。それを役員が〇〇様御祝儀〇〇円也とそのままオーパーな金額を書いた紙を舞台の上に張り、景気をつけて宣伝したので、次から次へと祝儀が上がった。これ以降、青年会は毎年盆と正月の二回くらい寺を借りて慰安会を開き、上がった祝儀は青年会の運営資金の一部となった。

劇場大盛館で大野の若者たちの「青春楽団」が誕生した。渡部貞春さん（八区）を中心にして作られた「青春楽団」は、職業はさまざまであったが、みな当時町でも進歩的な、そして音楽を愛する若者たちだった。構成員は次の通り。楽



楽団「花若」の金巻・聞念寺本堂での結成発表会のようす（宮田栄門・画）



昭和22,3年ころの楽団「そよ風」のメンバー。当初から木場、黒鳥などと交流があった。前列右から保政政雄（黒鳥）小川豊作（金巻）今井利一（金巻）笠原満夫（木場）、後列右から田辺伝平（金巻）石田エミ（黒鳥）小林由蔵（木場）森テル（黒鳥）渡辺又吉（木場）豊田精治（木場）古川ウメ（黒鳥）豊田善之助（木場）

本堂の下手に設ける舞台は大野小学校の教壇を借りて作るようになった。トラックのないところ、二十人くらいの会員が三、四台の牛ぐるまを引いて、小学校との間を二往復くらいで運んだ。

この慰安会には金巻中の家が空になるほど押しかけ、広い本堂もいっぱいになった。

この「青春楽団」のデビューに金巻からトランプベットの小川豊作、クラリネットの田辺伝平、アコーディオンの今井利一の三人が出演した。これは渡部楽長に頼まれての友情出演であった。そして、小川ら三人と「青春楽団」の交流は、その後も長く続けられた。執筆・宮田栄門 取材協力・前田松平、田辺伝平、小川豊作、今井利一（以上金巻在住、敬称略）